

主 題：救い主の死  
 聖書箇所：ルカの福音書 23章34節

今日はルカ23：34のみことばを学びます。

主イエス・キリストが十字架につけられたのは、金曜日の朝9時頃だったとみことばは教えます。約6時間の苦しみした後、イエスはご自分の霊を父なる神におゆだねになりました。大変な苦しみに遭われた主イエス、その当時の様子を振り返る時に、様々な疑問が浮かんで来ます。「彼らはいったいどこへ行ったのだろうか？」と。主イエス・キリストは公の生涯にあつて様々なわざをなさいました。すばらしいみわざを為されたのです。多くの者たちが主イエス・キリストによっていやされました。らい病人が、目の見えない人が、足のなえていた人が、ものが言えなかった人が、また、死んだ人が、主によっていやされ、主によってよみがえって来ました。多くの人々はイエス・キリストの奇蹟を目撃しました。男だけで5千人の人々に食事が与えられました。また、実際に、イエス・キリストの教えを耳にしました。イエス・キリストの御顔を拝しました。イエス・キリストの人柄に触れました。罪人を愛された主イエス・キリストを目の当たりにしました。そして、その愛をいただき、その祝福をいただきました。いったい、その人たちはどこへ行ってしまったのでしょうか？群衆は怒りに満ちて、めいめいに「彼を殺せ！」と叫びました。群衆はイエスを嘲り、頭をたたいて彼を罵倒し、紫の衣を着せ茨の冠をかぶらせ「ユダヤ人の王様！」と叫んだり、目隠しをして「今だれがたたいたかを言い当ててみろ」と彼を愚弄し蔑み、つばきをかけて彼を卑しめ嘲笑しました。また、イエスをむちで打ち、その全身からは血がほとぼしり出て、余りの痛みと苦しみにより悶絶しそうな彼に、十字架を負わせてゴルゴダへと向かわせた。どこに行ったのでしょうか？主によっていやされた者たちは？どこに行ったのでしょうか？主によって祝福を受けた者たちは？このとき、エルサレムにはたくさんの人たちが集まっていました。それは過越の祭りを祝うためです。多くの者たちがイエス・キリストを見、イエス・キリストの話を聞き、イエス・キリストの奇蹟を目撃したはずです。彼らはどこに行ったのでしょうか？なぜ、だれも「止めろ！」と叫ばないのか？

そんな中、イエスは十字架に架かり、釘が打ち込まれた手や足からは鮮血が流れ落ち、想像を絶する苦しみの中、私たちのだれもが味わったことのない苦しみ、また、恥辱の中、イエスが言われたことば、それが34節のみことばでした。もう一度、見てください。「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」、苦しみのないときに言われたものではありません。問題のないときに言われたものではありません。主イエス・キリストが十字架に磔にされ、その手と足に釘が打ち込まれ、その苦しみの中で最初にイエスが言われたことばがこのみことばだったのです。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」、何という主でしょう？何というお方でしょう？なぜなら、このみことばが私たちに教えることは、あの十字架の苦しみの中、両手両足から血が流れているその中であつて、イエスは群衆のために祈ったのです。イエスを嘲り、ののしり、嘲笑している者たちに対してイエスが為さったことは、彼らのために祈ることでした。

このイエス・キリストの祈りは、私たちに二つのことを教えてくれます。

- A. 「赦し」を求めた祈り：人々の罪の赦しを求めた祈り
  - B. 「知ること」を求めた祈り：人々が真理を知ることが求めた祈り
- この祈りをごいっしょに見て行きましょう。

☆十字架上の主イエス・キリストの祈り

A. 「赦し」を求めた祈り

1. 主のみわざ

「父よ。彼らをお赦しください。」と祈っておられます。これは「彼らの罪を完全に取り除いてください」、「彼らからその罪を消し去ってください」ということです。そして、この祈りは聞かれました。

1) ユダヤ人

ご存じのように、ペンテコステのときにペテロはユダヤ人を前にしてメッセージを語ります。もちろん、そこには異邦人もいたでしょう。エルサレムに住む人々のためにペテロはメッセージを語りました。そのとき、使徒の働き2：41のみことばが教えるように「そこで、彼のことが受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。」とあります。ペテロのメッセージを通して、三千人の人々が救いに与ったのです。使徒4：4には「しかし、みことばを聞いた人々がだれも信じ、男の数が五

千人ほどになった。」とあります。たくさんの人々が救いに与りました。6：7には「こうして神のことは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰にはいった。」と、神に仕える多くの者たちがこの救いに与っていったと記されています。

## 2) 異邦人

ユダヤ人が救われただけではありません。異邦人もこの救いに与りました。使徒8：38には「そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを受けた。」とあり、エチオピアの宦官が救われています。マタイ27：54を見ると「百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。」、ローマの百人隊長はイエス・キリストの死を見て信仰の告白をしています。主は確かに、ユダヤ人を、異邦人の多くの者たちに救いをお与えになりました。

## 3) パウロ

そして、使徒の働き9章を見ると、一人のユダヤ人が救いに至ります。サウロです。後にパウロと呼ばれる人物がそうです。

使徒11：18には弟子たちが語ったことがこのように記されています。「人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。」と言って、神をほめたたえた。」、主はあの十字架の上で祈られました。「彼らをお赦してください。」と。そして、多くの者たちが赦されたのです。そして、私たちも同じように、神の一方的なあわれみによってこの救いに導かれました。私たちが神を選んだのではない、神が私たちを選んでくださり、そして、私たちをこの救いへと招いてくださったのです。すばらしいみわざが為されました。そして、このすばらしいみわざは今も為されています。感謝なことです。

## 2. 人の責任 : 罪を悔い改めて救いを信じ受け入れる

この神の救い、イエスの祈りに神はこのようにして答えてくださっています。この救いを考える時に、一つだけ付け加えさせてください。確かに、救いは100%神のみわざです。神が私たちを救ってくださった。しかし、同時に、私たち人間に与えられている責任も忘れてはならないのです。

### 1) 並行箇所

ですから、このルカ23：34に記されている「父よ、彼らをお赦してください。」というギリシャ語のことは、同じルカの福音書の中に2回、同じような並び方によって出て来ます。一つは、11：4です。そこには「私たちの罪をお赦してください。…」と、主が弟子たちに教えられた祈りの中に見られます。もう一箇所は、17：3です。「気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。」とあります。ここで、主は私たちに救いを得るための私たち人間の責任というもの、罪人の責任を教えています。自分の罪を悔い改めるということです。そして、主が備えてくださった救いをいただくということです。17：3の最後には「そして悔い改めれば、赦しなさい。」とあります。原語をそのまま訳すと「そして、もし、彼が悔い改めれば彼を赦しなさい。」です。条件があるのです。「悔い改めれば」と。私たち罪人が救いをいただくために必要なこと、私たちの責任とは、私たちの罪を神の前に悔い改めて、神が備えてくださった完全な救いをいただくことです。

### 2) パウロのメッセージから

ですから、ペテロもパウロもそのメッセージを語り続けました。使徒20：21では「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」と、パウロは語っています。ユダヤ人であろうとギリシヤ人であろうと、すべての人に「神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張した」と、それがパウロのメッセージでした。同じように、使徒26：20でもパウロはこのように言います。「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。」と。みことばは私たちにはっきり教えてくれます。私たちの責任は、ただ、イエス・キリストの備えてくださった救いを信じればいいではなく、私たち自身の神に対する罪を心から悔い改めて、救われるために備えてくださったイエス・キリストによる救いのみわざを信じ受け入れることです。

### 3) その他のメッセージ

ペテロもそのように語りました。使徒2：38「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」と。

ですから、私たちは「救いは神の恵みです」と言います。確かにそうです。しかし、同時に、救いにおいて私たち人間にも責任があることを忘れてはいけません。だから、私たちは人々にメッセージを語り続けるのです。「罪を悔い改めて、あなたが救われるために主が備えてくださった救い主イエス・キリストの救いのみわざを信じ受け入れなさい。」と。そのように使徒たちはメッセージを語り続けて

いきました。

主イエス・キリストが十字架にお架かりになったときに、イエスは人々の救いを祈られました。その苦しみの中であって、主が考えられたのは自分のことではなかった、そこにいる罪人たちのことでした。彼らの救いのことでした。そして、彼らに救いが与えられるようにと祈っておられるのです。このような主を私たちは誉め称えるのです。これが私たちの主です。こんなにも愛とあわれみに満ち溢れたお方です。

## B. 「知ること」を求めた祈り

神の真理を知ることです。ルカ 23 : 34 b 「彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と。つまり、彼らは神の真理が分からなかった、その真理を理解していなかったというのです。だから、彼らは狂ったように叫び続けたのです。「イエスを十字架につけろ！」と。それがどれ程罪深い大きな罪であるかを彼らは考えていませんでした。十字架に架かっておられる方がだれなのか、彼らは分かっていたのです。ですから、イエス・キリストは十字架上で、この人々がこの真理を知ることができるように、この真理を理解できるようにと祈られたのです。主イエス・キリストはご自分を隠しておられたのではありません。主は明確にご自分がだれであるのかを明らかにされ続けました。ご自分が約束の救世主、救い主であることを、人々の前に明らかにされ続けました。人々がそれを聞こうとしなかった、それを信じようとしなかったのです。主イエス・キリストはご自分が真の創造主なる神であることを明らかにされました。

もしかすると、そのメッセージを聞いていて、今、まさに十字架に架かって苦しんでいる主を見たときに、群集は思ったかもしれません。なぜ、十字架につけられているこの方が神なのか？なぜ、この方が救い主なのか？と。それは、確かに、ガラテヤ 3 : 13 で教えるように、「…「木にかけられる者はすべてのろわれたものである。」と書いてあるからです。」、十字架で処刑される者はみなろわれた者、神の前に罪を犯した者です。そして、今、ご自分を神とし、救い主と言い続けてきたこの方が十字架で死んでいる。なぜ、このろわれた者が神で有り得ようか？なぜ、救い主で有り得ようか？と、人々はそのように思ったかもしれません。それもこれも、彼らは真理を知らなかったのです。

今から、三つの私たちが知らなければいけない神の大切な真理を見ます。

### 1. イエスがだれであるかを知らない

イエスはすべてをお造りになった創造主なる神であり、人々が待ち焦がれていた待望の救い主です。そして、そのことは彼のおことばが明らかにしました。彼の歩みが明らかにしました。彼のうちには何一つ罪を見つけることができなかつたからです。繰り返して言われました。「わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」（ヨハネ 2 : 47）と。十字架に架かっていく様子を見ても、私たちはこの方が約束の救い主だということを知ることができます。イエスは十字架に架けられたのではありません。イエスはご自分から十字架に架かってゆかれたのです。無理やりにイエスに十字架を負わせたのではありません。彼が十字架を選んだのです。それは彼が約束の救世主だからです。私たち罪人を救うために来られた救世主だからです。

### 2. イエスが十字架に架かれたその目的を知らない

何のためにイエスが十字架に架かっておられるのか、その目的を知らなかったのです。二つあります。一つは「私たちの救いのため」です。もう一つは「私たちが新しい歩みを為していくため」です。

#### 1) 私たちの救いのため

主イエス・キリストは確かに、私たち罪人の救いのために十字架に架かられました。そのことを聖書は私たちに教えます。ですから、イエス・キリストの十字架に関して次のようなことばが用いられています。一つは「なだめの供え物」ということばです。もう一つは「贖いの代価」と出て来ます。どういう意味なのか、説明します。

#### (1) なだめのいけにえ

「なだめ」ということばが使われています。I ヨハネ 4 : 10 に「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」とあります。ここに「なだめの供え物」ということばが出ています。私たちがこのことばを見るときに、あることを覚えなければいけないのです。それは、主なる神は罪を憎んでおられるということです。主なる神は罪に対して怒っておられるとも言えます。どんなに小さな罪であっても、主はそれを憎み、それに対して怒りをお持ちだということです。だから、「なだめの供え物」なのです。神学辞典では「なだめ」とは「供え物によって怒りが除かれることである」とあります。なだめの供え物によって怒りを除こうとするのです。だれかが怒っているからそれをなだめようとするのです。怒っていなければなだめる必要はありません。ですから、「なだめの供え物」ということばを聞く時、私たちは神が罪をどれ程嫌っておられるのか、どれ程憎んでおられるのか、そのことを忘れてはならないのです。

私たちの神は、確かに、愛に溢れた神です。あわれみに満ち溢れた神です。しかし、罪を憎んでおられる正しいお方です。私たちがことばで為す罪も行動で為す罪も、想像で為す罪も、ありとあらゆることを見ておられる神はその罪に対して心を痛められます。そして、その罪を憎まれます。私たちはローマ人への手紙を学んでいます、その中でこのみことばを繰り返し学んで来ました。2：5「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」、神の前に心を開こうとしない人たち、神に逆らい続けている人たち、その人たちに対する神の警告というのは、神の御怒りの日がやって来るということです。その人の上に、その人の行なった罪にふさわしい神の怒りが注がれるというのです。大変恐ろしいその日が近づいていると言います。なぜなら、私たちは一日一日死に近づいているからです。

罪の赦しを受けないまま永遠の滅びに至るなら、その人に待っているのは神の怒りを受けることです。そして、パウロが教えたように、悲しいことに、神に背を向けて生きている人々は、日に日にその罪によって神の怒りを増しているというのです。どんなに厳しい神のさばきが下るのでしょうか？そのさばきにはあわれみはありません。その罪にふさわしいさばきが神によって下されます。同じローマ2：8には「党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。」とあります。パウロはエペソ2：3で「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」と言っています。神の怒りを受けて然るべき者だったと。コロサイ3：5、6にも「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。：6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。」とあります。

ですから、私たちがみことばを通して教えられることは、神は罪を必ずさばかれるということ。神は罪を憎んでおられるからです。そして、私たちがこの主の怒りをなだめるために何一つできない、不可能だということ。だから、神がそのことを為してくださったのです。驚くべき事実は、私たちが罪を犯し、その罪に対して怒りをもっておられる神、その怒りをなだめるために主ご自身がなだめのいけにえを備えてくださったということです。考えられますか？皆さん、悪いのは私たちです。神に従うべき私たちが神に逆らって神の前に怒りを積んでいるのです。本来なら、私たちがその怒りを受けるべきなのに、神ご自身がご自身の怒りをなだめるためにご自分のひとり子を犠牲にしたというのです。何という神でしょう！あなたに対して神は怒っておられる、その罪への怒りをなだめるために、イエス・キリストが送られて来て、そのイエス・キリストがなだめの供え物として、あの十字架に磔にされたのです。こうして、神はその怒りを取り除き、あなたに赦しを与えようとしてくださったのです。

## (2) 贖いの代価

もう一つのことばは「贖いの代価」です。罪のためのいけにえ、贖罪のために完全ないけにえということ。マルコ10：45に「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」とあります。この「贖い」ということばは「身代金、贖い金」という意味があります。また、「身代金、贖い金を払って買い取る」という意味があります。聖書のみことばを見たときに、罪を犯した人にはその代償、償いとして「死」が要求されています。神に対して罪を犯した人は、自らの死をもってその償いをしなければならないのです。そのようにみことばは教えます。エゼキエル18：4に「見よ、すべてのいのちはわたしのもの。父のいのちも、子のいのちもわたしのもの。罪を犯した者は、その者が死ぬ。」とあります。私たちが神の前に罪を犯すなら、私たちがその罪の償いとして自らのいのちを差し出すのです。でも、神は罪のための身代わりを私たちに代わって殺すことをよしとされました。そのために、人々は羊や様々な動物を自分に代わるいけにえとしてささげ続けたのです。罪の贖いには血、すなわち、いのちがささげられることが必要だったのです。死によって贖われるのです。レビ記17：11に「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」と記されています。みことばが教えることは、神の前に罪を犯すなら自らの血をもってそれを償わなければならないということです。そして、神は私たちに、私たちのいのちの代わりに、身代わりのいけにえをもって神の前に償いを求めることを赦されたのです。ただし、その場合でも、そのいけにえを殺さなければならなかった、そのいのちによって罪が贖われたからです。

ですから、今でもユダヤ人たちは「贖罪の日」を祝うのです。ヨーム・ハッキプリームと言われる日です。年に一回あります。今年も10月にその日がやって来ると言います。その日に大祭司は次のようなことをします。まず、彼は自分と家族のために罪の贖いをします。その後、二頭のやぎを会見の天幕の入り口に連れて来てそこに立たせます。そして、くじを引きます。そのくじに当たった方のやぎを罪のためのいけにえとして殺して、その血をもって神殿の至聖所に入っていきます。最も聖いところです。そして、犠牲のそのやぎの血を契約の箱の蓋に注ぎかけるのです。そうして、人々の罪の赦しを求める

のです。もう一頭のやぎがいます。これをアザゼルのやぎと言いますが、このやぎの頭に両手を置いて、イスラエルの人々のすべての罪をその上に告白するのです。そして、係りの者がそのやぎを荒野に放つのです。犬だったら戻って来ますが、やぎは戻って来ません。それはあることを意味していました。いけにえと同じように、この行為によってイスラエルの罪の赦しを表わしたのです。

このようなことを年に一度、イスラエルは行ないました。そして、今でもそれをやっています。こうして、一年間の自らの罪を主の前に赦していただいたのです。私たちの罪が赦されるために動物のいけにえがささげられた。でも、今話したように、これは毎年やらなければいけなかったのです。そこで、神は完全ないけにえを送ってくださった。ヘブル9：12には「また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」とあります。主が為さったことを著者はこのように明確に教えてくれます。やぎや子牛の血によってではない、もし、そのような動物のいけにえだったら毎年毎年繰り返さなければいけなかった。罪の赦しを得てもそれは一時的なもので永遠のものではなかったのです。しかし、神が送ってくださった完全ないけにえであるイエス・キリストの身代わりによって、このいけにえの死によって、罪の赦しが完全に与えられるのです。何度もイエスを十字架に磔にする必要はないのです。一度でもって完全な罪の赦しを、信じる者に神は与えてくださるのです。

同じヘブル9：26には「もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」とあります。神が備えられた完全ないけにえは、そのいのちを一度だけささげることによって信じるすべての人々の罪を、完全に永遠に聖めることができるのです。完全な罪の贖いを成し遂げてくださったのです。Ⅱコリント5：21に「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。」とある通りです。

主イエス・キリストが十字架にお架かりになりました。その目的は「救いのため」です。主イエス・キリストは「なだめの供え物」として神の怒りをなだめるために、あなたの身代わりとなって十字架で死んでくださった。イエス・キリストは「贖いの代価」として、あなたを救うためにご自分のいのちという代価を支払ってくださったのです。そして、あなたを罪から完全に永遠に救い出してくださったのです。その目的で主は十字架に架かっておられたのです。群集はそのことを知らなかった、あの十字架の死は私のためだったということを彼らは気付いていなかったのです。だから、主は祈ったのです。「彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と。

## 2) 私たちの新しい人生のため

イエスが十字架で死なれた目的は「救いのため」だけではありませんでした。私たちの新しい歩みのためです。Ⅱコリント5：15には「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」とあります。私たちが本来の目的に沿って生きて行くためです。私たちはこの主を愛してこの主のために生きる者として神によって造られました。それに逆らったのは私たちです。しかし、主は私たちを生まれ変わらせてくださって、本来の目的に沿って生きる者へと私たちを造り変えてくださるのです。主イエス・キリストの十字架がそれを可能にくださったのです。なぜなら、罪赦された者は、言い方を変え、生まれ変わった者だからです。生まれ変わった者は、神が生まれ変わらせてくださったことによって、神のわざをする者として生きるのです。

マタイの福音書25章の中で、主人が三人のしもべたちにそれぞれ5タラント、2タラント、1タラントのお金を渡して旅に出るとえが記されています。5タラントと2タラントを預かった者たちには同じ特徴がありました。それは主人に対して忠実だったことです。だから、それを褒められたのです。つまり、主人に対して忠実に生きようとするのは救われていることの証拠なのです。しかし、1タラント預かった者は主人に従おうとしませんでした。「悪い不忠実なしもべ」だと言われます。このしもべは救われていなかったのです。救われている人も、残念ながら、失敗をします、罪を犯しますが、その特徴は、主に従っていきたいという新しい思いをいただいた者として、そのように生き続けて行こうとすることです。みことばが教えるように、私たちのために「死んでよみがえった方のために生きるため」に主は十字架に架かり、そして、その主を信じた者はそのような者として生まれ変わるのです。

なぜ、イエスは十字架に架かられたのか？私たちが救うためです。私たちが新しく生まれ変わって新しい歩みをするためです。そのためにイエスはご自分のいのちを自ら進んで十字架で捨ててくださった。あなたは生まれ変わっていますか？新しい歩みを始めていますか？罪が赦されたことを喜んでいますか？イエスがだれなのか群集は知りませんでした。何のためにイエスが十字架に架かっているのか、その目的を知りませんでした。そして、もう一つ、

## 3. イエスが十字架に架かられた理由を知らない

みな思ったのです。彼が何か罪を犯したから十字架に架かっただけで、イエス・キリストが十字架に架かった理由を知らなかった。その理由、みことばがこのように教えます。Iヨハネ4：10「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」、なぜ、父なる神が子なる神イエス・キリストを地上に送ってくださったのか？なぜ、子なる神が自ら進んで十字架に架かってくださったのか？私たちはこの方を愛していませんでした。でも、この方が私たちを愛してこのようなすばらしい救いを備えてくださったのです。イエス・キリストが十字架に架かった理由、それは私たちを愛するゆえにです。神をあなたを愛してあなたのために喜んでご自分のいのちを犠牲にしようとされたのです。こんなにも愛してくださっている神がいられないのです。群衆も兵士たちもそのことを知らなかった。イエスがいったいだれなのか？何のために、どんな理由でイエスが死んでいるのか？彼らは知らなかった。ユダヤ教の教師たちも同じでした。議会の議員たちも同じでした。自分たちのしていることが神に対してどれ程大きな罪なのか、それを知ることがなかったのです。群衆は叫び続けました。「**彼を除け！十字架だ！十字架に付けて殺せ！**」と。このイエスを十字架に付けて殺すというその責任が自分にあることを彼らは知らなかった。自分の罪がイエス・キリストを十字架に追いやったということを、彼らは知らなかったのです。

そのことを明らかにしたメッセージ、ペテロがこのように語っています。「**ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。**」（使徒の働き2：36）と、ペテロは明確にイエス・キリストが十字架に磔にされ、そこでのいのちを落とされたその原因はあなたにある、あなたの罪がイエスを十字架に追いやったのだと言います。こうして彼らは主が祈られたように、神の真理を知っていくこととなります。皆さん、あなたも今、この大切な真理を聞かれました。イエスが創造主なる真の神であることを聞いてくださった。そして、この神であるイエス・キリストを十字架に架けた責任は、実は、あなたにあることも聞いてくださった。主はあなたへの神の怒りをなだめるために、自ら進んで十字架に架かり死んでくださった。あなたの罪の身代わりとして十字架で死んでくださった。これらを通して、あなたがいかに愛されているかを明らかに示してくださった。それなのになぜあなたはこの方に背を向け続けるのですか？なぜ、この方を拒み続けるのですか？あなたに一番大切なものを与えるために、一番大切ないのちを捨ててまで、あなたを救おうとしてくださっているこの救い主、なぜ、この方を拒み続けるのですか？なぜ、この救いを必要としないとするのですか？

ペテロのメッセージを聞いた群衆はこのように言います。使徒2：37-38「**人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言った。：38**そこでペテロは彼らに答えた。「**悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。**」と。これが今、神があなたに望んでおられることです。罪を悔い改めなさい。そして、わたしをあなたの救い主として、あなたの主として受け入れなさいと。あなたを罪から救うためになだめの供え物として十字架で死んでくださったイエス・キリスト、あなたを罪から贖うために、罪のない方があなたのすべての罪を負って十字架で死んでくださった、そして、その方は約束通りよみがえってくださった唯一の救い主です。あなたを救ってくださる方です。その方が備えてくださった救いを感謝して受け入れることです。「**主よ、私は感謝します。こんな私を愛して、こんな私のために救いを備えてくださった。イエス・キリストは私の身代わりとして十字架で死んでくださり、よみがえってくださった真の救い主であり、真の神です。私は感謝してこの救いを受け入れたい！私は感謝してこの方を信じこの方に従って行きたい！どうぞ、私の罪を赦してください。**」と、そのように今、神の前に出て来ることです。

あなたは罪を赦されていますか？救いをいただいていますか？新しく生まれ変わりましたか？あなたの心の中には神に仕えていきたい、神の前に忠実に歩んでいきたいと、そのような救われた者に特有の思いがありますか？十字架を見上げてください。どんなことを神はあなたのためにしてくださったのか、しっかり覚えてください。そして、その神に心を開いてこの方を受け入れるのです。この方を心から信じ受け入れるのです。そして、この救いを今日ご自分のものにしてください。

救われておられる皆さん、私たちは十字架を忘れてはいけません。私たちが語るのは、この十字架に架けられたイエス・キリストです。ここに救いがあるから、ここに完全な、そして、永遠の救いがあるのです。このメッセージはあなたや私に託されたメッセージです。これをもって出て行くことです。十字架に付けられ、私たちのために救いを備えてくださった主イエス・キリストを宣べ伝え続けて行きます。それが私たちの主に対する新たな決心であってほしいと思います。

## 《考えましょう》

1. 主イエスが十字架で死なれたのはどうしてですか？

2. 「なだめの供え物」が私たちに必要なのはどうしてですか？
3. 罪を赦していただくためには、私たちは何をしなければなりませんか？
4. あなたが主イエスに一番感謝なすることは何ですか？